階級にも亦色々ある。これは兒童に課することには躊躇するが門閥家と普通の家、舊家と新來者、士族と平民、農民と漁民、本家と分家等の間に精神的な階級があり、又社會的・經濟的・文化的に見て上流・中流・下流とか、智識階級とか第四階級とか色々のことが云はれるが、それ等の相互關係と共にその地理的分布の狀態は特に注意研究を要する。

これ等社會組織の狀態と共に種々の制度についても調べねばならぬ。結婚の制度はどうなつてゐるか、一夫多妻的のことが默認せられてゐるか、掠奪結婚の樣式が殘つて居ないか、或は賣買結婚の遺風は無いか。又今日は殆ど見られないけれども嬰兒壓殺の風習だとか墮胎だとか、或は特に男兒を好まなかつたり女兒のみを壓殺したりといふ樣なことの行はれた地方もある。それ等も地勢その他環境の影響から來た場合が多い。

家族制度がどうか財產制度がどうか。夫婦財產を別にする地方もあれば本家分

家が一部の財產を共同にする地方もある。又村落共產體なども所々にあるし、全部が共產でなくても或程度まで土地やその上に生ずる雜草、灌木等を共有にしてゐる地方は多い。これ等についても亦詳しく記錄してその推移の狀態を見たいものである。

文化

文化については言語・教育・藝術・宗教等について調べよう。言語には必ず鄕土特有の方言といふものがある。その方言の性質を研究すると色々のことがある。例へば九州の延岡には東京系統の方言が行はれてゐるが、これは舊藩主內藤氏が磐城から移封した結果であるし、山陰・北陸方面と、濃美・參遠地方とは各古代に於て種族を異にしてゐたものであらうとの說がある。又裏日本方面に所謂出雲辯といふ口ごもつた發音のあるのは氣候が寒くて口を多く開かないためだと說く人

もある。

方言の研究は音韻・語法・單語の三方面に亘らねばならぬ。單語を集めることは何處でも行はれてゐるが、それだけでは決して方言研究とは云はれない。單語は各品詞について漏れなく集めねばならぬが、特にその地の特色ある語彙に注意し、養蠶地・製茶地・山林・漁村それ〳〵特殊な語彙の發達してゐるものであるから、それを出來るだけ蒐集すべきである。そして進んで音韻の調査に入ると、母音はアイウエオの五つが備つてゐるか、子音は標準語と同じかどうか、母音と子音と結びついて標準語に無い音が出はしないか。(例へばスィ・デュ等)音の變ることはないか。(例へば手拭をテノゲー、電報をレンポー等)長音・促音・鼻音を含んだ言葉で地方的のものは無いか。アクセントはどうなつてゐるか等を注意し、更に語法については動詞・形容詞の活用、助動詞による種々な表現、敬語のつかひ方、種々な助詞の用法等を調べねばならぬ。(東條操氏「國語の方言區劃」參照)

方言を調べたならばその行はれてゐる範圍を明瞭にすべきである。而して凡ての方言が悉く一定の限界を有するわけでは無いが、その中最も多くの方言の境界となつてゐる線は、方言區劃線として注意すべきもので、それは必ずや地形その他の自然環境と、政治區劃等の歴史的な要素とに深い關係を有するものであり、交通の發達に伴つてその境界線に變化を來すことの多いものである。單に方言を集めたばかりでは鄕土地理にはならないが、その特質を明かにし、その限界を明瞭にすることによつて、始めて貴重な地理的意義を有するものとなる。

教育については先づ小學校は適當な位置にあるか、通學區域との關係はどうか、最遠通學距離は何程か。就學率はどうか、どの部分に不就學の兒童が多いか。出席率はどうか、どの部分の兒童に缺席が多く、どんな時期に缺席が多いか。又卒業生の狀況はどうか、上級學校に進むもの、職につくもの、夫々どの位の割合であるか。

中等學校の卒業生、在學生が何程あるか。專門學校以上の卒業生、在學生の數はどうか、大學を出たものが幾人あるか、それが人口の何パーセントに當つてゐるか。何か特殊の方向に進んでゐるものが多數にあるといふ樣なことは無いか。發明發見が何程あるか。廣島縣甲好郡田總村は戸數僅かに四百ばかりの中から六人の博士を出してゐるが、その原因は過去の小學校長に偉大な人格者が居たからでもあり、又村民の財力が一般に豊かで向學心が盛なためでもあると考へられる。こんな特殊なことがあれば決して見逃してはならぬ。

都市にあつて專門學校や大學などのある處では、そこの學生が何處から集つてゐるか、それがその地方の風習なり經濟なりにどう影響してゐるかといふ樣なことを調べよ。田舍の小さい町では一つの中等學校があるためにその地の生活に大關係をもつてゐる處がある。純然たる學校町なるものがあるかも知れない。

圖書館・博物館はどうか。どれ位のものが集められ、どれだけ利用されてゐる

か。入館人員と人口との割合等を調べよ。又新聞が發行されてゐるか。他の都市からどんな新聞が入るか。新聞を讀む家の數は何程で、それが全戸數に對する割合はどうか。

宗教は何が最も廣く行はれてゐるか。神社・寺院・教會の數及び場所、そこには集會が何回行はれてどんな人が主に集るか。新しい宗教として天理教などの信者が何程あるか。大元教の樣な邪教はどうか、迷信的中心物は無いか。

藝術については鄕土にどんな藝術家が出たか。鄕土にどれだけの藝術品があるか。古書畫・古器物の類から記念塔や記念的の建築物などはどうか。特別保護建造物とか國寶とかがあればその由來等を調べよ。尙史蹟名勝天然記念物についても調べよ。それから鄕土特有の藝術として例へば一種の劇團の樣なものとか、踊りや俗謠の樣なもの、手細工的の製作品、他地方人への土產物となる樣なものは無いかを注意せよ。鄕土に於ける盆踊りの音頭とか、子守唄・鞠唄・田植唄、その他

各種の勞作歌謠及び遊樂的歌謠を蒐集せよ。尙その行はれる範圍については方言と同樣限界線を明かにすると面白いであらう。

子供の生活

小學校入學以前の幼兒が何人居るか。彼等は毎日どんなにしてくらしてゐるか。主な遊戯は何か、玩具はどんなものが多いか。何か鄕土に特有の玩具、家庭に於て手造りされる玩具は無いか。農村ならば農繁期にはどうしてゐるか。都會ならば勞働者の家庭では誰が彼等の相手となるか、又どんな遊び場があるか。

託兒所があるか。どんな家庭の人が利用してゐるか、何人位居るか。年中開いてゐるかそれとも季節的か。幼稚園があるか。小學校入學兒童の何割がそこに入るか、それは主としてどんな家庭の子供か。その外何か幼兒に對する特別の施設があるか、又何か必要を感じてゐることは無いか。

小學校の兒童は一體にどんな氣風であり、どんなことを好むか。禁止すべき遊戯はないか。彼等の間に最も盛に行はれる遊戯を季節毎に數年間に亘つて記錄せよ。どんな遊戯道具が用ひられてゐるか。彼等自身手製のものがあるか、何か廢物を利用した遊戯具はないか。學校以外では主に何處で遊ぶか。

何か學校以外に彼等を導く施設があるか。日曜學校とか少年團とかの類は無いか、あればそれに參加する兒童數は全兒童の何割に當つてゐるか。それはどんな活動をしてゐるか。又彼等の讀む課外讀物はどんなものか、新聞を讀む子供があるか。

彼等の中に勞働に從事するものは無いか。どんな勞働に從事し、一日何時間働いて何程の報酬を得てゐるか。それは副業的家内工業のこともあらうし、他人に雇はれて働くものもあらう。又牛乳や新聞の配達をなすものもあらう。彼等の學業成績は勞働のためにどんな影響を受けてゐるか。又彼等の勞働が家計をどの程

度に助けてゐるか。農村等では農繁期に家業を手傳ふものもあらうし、都會でも店の手傳などするものがあらう。それ等の報酬とか收入とかは計上し難いが、一ケ年に凡そ何程の貢献をなしてゐるかを概算して見よ。又弟妹の子守りをしてゐるものも多いであらうし、女兒には炊事・洗濯等の家事を手傳ふものもあらう。それ等の時間をも累計せよ。

子供の生活を通じてそれが自然からどう影響されてゐるかを見よ。山や川の存在、海岸の狀態等は彼等の遊び場として種々の關係を有するであらうし、氣溫や雨の狀況等も彼等の生活に何かの恩惠と制約とを與へてゐるであらう。そして他地方と比較研究して見る時にそこに何等か得る處があるに相違ない。

衛生

鄉土の衛生狀態はどうか、どんな病氣にかゝるものが多いか。農民には十二指

腸蟲病が多いとか、漁民にはトラホームが多いとか、職業その他によつて特殊の狀態がありはしないか。その地方特有の病氣即ち風土病といふものはないか。あればその主として流行する地方、範圍等について調べよ。風土病の原因等は醫學者でなくては研究が出來ぬが、その範圍とか流行の時期、その時に於ける氣候その他の狀態等について記錄することは、科學的研究のために貴重な材料となるものである。

又傳染病にはどんなものが多いか、それは主としてどの方面から始まつてどちらへ傳播して行くか、その經路の如きは大體に於て定まつたものがあるかも知れない。聚落の狀態、生活程度の如何等によつて傳染の早い地域と遲い地域とがあるであらうし、川筋、交通線等に沿ふて急激に擴がつて行くものであるから、流行の度毎にその經路を圖示すると、後には一定の傾向なるものが明瞭になつて來る。

醫療の方法はどうか、醫師が何人あつて人口との割合がどうか。その醫師は專門的であるか綜合的であるか。置き藥・買ひ藥が用ひられるか、民間療治としてどんなものがあるか。その地方特有の動植物又は土石の類で醫療に用ひられるものは無いか。何か療病上迷信が行はれてゐないか、どんな種類の迷信か。

死亡の原因は何病が最も多いか、呼吸器病・消化器病・神經系病・外傷・自殺等に分つて統計をとつて見よ。一般に暖地には消化器病が多く寒地には呼吸器病が多い傾向がある。又鑛工業には外傷による死亡が多い。他地方と比較して鄕土の特色を見出せ。又死亡數を月別に統計して季節と死亡との關係を見るべく、年齡別に調べて毎五歲毎に勘定して見よ。殊に乳幼兒の死亡率が何程であるかを計算して他地方と比較せよ。

一般に體格及び健康狀態はどうであるか。壯丁檢査に於ける甲・乙・丙各種の合格步合を調べよ。身長や體重の平均はどうか。小學兒童身體檢査の結果を精査し、

身長・體重等が全國又は府縣の平均とどう違ふかを見、脊柱・視力・營養・疾病等の狀況をも他地方と比較せよ。又出來得れば同町村內の各部落に分つて統計して見よ。職業若くは自然現象との間に何か關係のあることが發見されるかも知れない。

或漁村の衞生狀態（岡山縣下津井町大島）

この部落は住民の大多數が漁業に從事する純然たる漁村であるが、その衞生狀態はあまり良好と云はれない。住家の不潔とその生業に歸因する色々の不衞生とは日常生活に相當影響を及ぼすものであつて、眼病の多いことは確にその不潔に重大な原因を見出すことが出來る。併し身體は海上の勞働の結果概して强健である。

健康狀態を健全なもの、中のもの、弱のものに分けて集計して見ると、健全なものゝ總數は一〇四七人で、全人口の九四・四五%を占めて絕對多數に上り、次は弱いもの四二人で三・九九%、中間のものは最少數で僅かに一五人を數へるに過ぎない。次に身體的に異狀を有するものはトラホーム三八人、胃腸病一七人、婦人病九人、神經痛八人、盲目二人、其他一五人で、そ

の總數は全人口の八・五五%である。

入浴狀態を見るに殆ど自家に浴場を有しないで、二つの錢湯に入浴するのであつて、その一ケ月入浴回數は十五回から二十回までのものが大多數で五二・九四%、毎日入浴のものが二八・三七%、十回以下のものが一八・六九%で、最も入浴回數の少いものは一ケ月六回以下といふのが十三人（男九、女四）ある。而して毎日入浴するものは男子よりも女子に多いのである。要するに比較的よく入浴するといふことは、蓋し生活環境によるものであらう。

更に理髮について見ると、自分でこれをなして床屋や髮結を煩はさないものが七六・九九%に上る。勿論女子は殆ど全部がこれに含まれ、床屋の手を借るものは一九・二九でその大部分は男子である。そして女にして常に髮結の厄介になつてゐるものは僅かに二人に過ぎないといふことは、生活程度から見て當然のことゝ思ふ。（岡山縣學務部社會課「漁村の生活狀態に關する調査」による）

交通景

交通を産業の一種と見る人もあるが、單に營業的の運輸業や通信業のみでなくて、廣く交通といふ事實を見るときは、それは人間生活の一態樣なのである。文化が進めば交通の量が增し頻度が增し、速力は大となり距離は遠くに及び、手段方法は一層巧妙になつてゆく。どんな交通狀態であるかといふことは、文化の程度を計る一種の尺度ともなるし、職業や生活程度を示す目標となり易い。

先づ道路を見よ。幅何程の道路が延長何程あるか。その道路の曲りや勾配はどうか。主要の幹線はどの方向に通じ、何處が中心となりどう分布してゐるか。自動車の通ずる道路、荷車しか通じない道路、自轉車のみ通ずる道、車は一切通じない小徑等に分つて地圖に記入して見よ。道路の總延長を面積で除したる商は道路の密度である。これを各部落について比較し、又隣接地方と比較して見よ。

道路面の狀態はどうか、自然土石のまゝか他から土砂又は砂利を入れてゐるか。都會ならば鋪裝道もあらう。どんな種類の鋪裝か、アスファルトかコンクリートか石又は木煉瓦の類か。街路の全面が鋪裝してあるか、兩側の人道のみか中央の

車道のみか。車道・人道の區別があるか。街路樹があるか、その樹の種類は何か、何時頃植えられたものか。市區の改正は何時行はれたか。今後尙修正すべき道路があるか。或は擴げるとか曲りを正すとか、勾配を減ずるとか路面を改良するとか、すべてそれ等について兒童に意見を立てさせて見るのも面白い。

鐵道があるか。その延長が何程で軌幅は何程になつてゐるか。トンネルはどうか、勾配は何程で驛は何處にあるか。驛の構造はどうか、入口がどちらにあつてプラットホームがいくつあつて、跨線橋があるとか地下道があるとか、貨物ホームの狀況、給水給炭の設備等を調べよ。航路はどうか、河には舟を通ずるか筏を流してゐるか。海岸には港があるか。港の設備はどうか、防波堤・棧橋・倉庫・船渠等各種の設備について調べよ。又港から何處へ定期航路を通じてゐるかを見よ。

交通機關に就ては、鐵道の上を走るものは汽車か電車かガソリンカーか。列車ならばその編成の模樣（貨車と客車とは別か又は混合か、何輛連結するか等）を見

よ。道路上の交通機關としては無軌道電車・自動車・オートバイ・自轉車等から、牛車・馬車・人車・犬車、それから各種の橇などに就て、どの方向へどの機關が最も多く用ひられるかを見よ。又水上交通機關については汽船・ヂーゼル船・發動機船・帆船及び櫓櫂を以て動かす小舟等に分つて、それ〳〵その隻數、運航の回數及び方向、積載物の狀態等を調べねばならぬ。

次に交通量について調べよ。驛では貨物の發着噸數、客の乘降數等は統計がある筈、港では各回漕店について調べねばわからぬ場合が多い。これ等貨客の數はこれを月別に統計して季節的の變化を見ねばならぬ。又出來得れば到着貨物の發送元、發送貨物の行先をも統計をとるとよい。そしてこれを地圖上にグラフで表はすと、貨物の動きが一目瞭然となるであらう。

道路上の交通に就ては現地に臨んで調べる外は無い。田舍ならばそれは割合に簡單であるが、大都市では容易ならぬ事業である。兒童を使つて街の一角に立つ

て、一人は右に行く人を、一人は左に行く人を、一人は自動車を、一人は馬車をといふ樣に、手わけをして數へねばならぬ。終日數へるわけには行かぬから、朝・晝・晩と適當な時刻に一時間づゝ數へ、それによつて一日の交通量を推測すればよい。町の入口とか中央とか、適當の場所を選定して同時觀測を行へば、交通量のみならずその流れの特質をも知ることが出來る。都會地では朝に入り込む人が多くて夕方に出て行く人が多いとか、東西の流れよりも南北の流れが強いとか、色々の事實が明かになつて來るであらう。電車やバスの運轉回數は大體きまつてゐるであらうが、その乘客數は臨地調査で推測によつて概數を知るより外に方法は無い。

道路の新舊によつてその交通量がどう違ふか。田舍では傾斜の急な古い道路が廢せられて屈曲の多い大道路が出來て居たりするが、その新舊兩道の交通量を比較すると舊道の方が却つて交通量の多い樣な場合がある。又步行者は凡て舊道を

通り、車馬のみ新道によるといふ樣なことも少くない。又都會に於ては市區の改正や市域の擴張等によつて交通系統に大變化を來すことがあるから、交通量の變化といふことには深い注意を拂はなければならないし、狹い道路に交通量の大なる場合、その道路をどれ程迄に擴張すべきかといふ樣なことも、面白い課題として兒童の興味をそゝるであらう。

それから通信については郵便局で調べるがよい。各種郵便物の發着數、電信・電話、郵便爲替の取組數など、これを季節に分つて縱の分布を見、部落別の統計が得られたら橫の分布も明かになる。鄕土に郵便局がないならばその所管郵便局に行つて調べよ。又無集配局やポストの數が何程あつてどう分布してゐるかを圖示せよ。

交通が雨雪その他氣候の影響によつてどんな障害を受けるか。船の交通の杜絕することが一年に何回位何時頃にあるか。殊に雪國では雪のために道路や鐵道が

埋もれ電線が切斷する等のことがあらう。それ等については多年に亘つて統計をとる必要がある。

生活程度

資産

生活程度がその人の有する資産の高に正比例するものでないことは確かである。死んだ乞食が數千圓の貯金通帳を持つてゐたといふ話もあれば、贅澤の限りを盡してゐる人が數十萬圓の借財をもつてゐることもある。併しそれ等は概して例外的の話で、大體から云へば資産の多寡は生活程度を知る一標準となる。

資産はこれを不動産・動産及び負債に分つて觀察しよう。不動産と云へば家と土地とが主要なものである。これ等を有するものと有しないものとの戸數は各何程であるか。又出來得れば各戸についてその所有する不動産を評價し、若干の階級に分つて各階級が何戸づつあるかを調べて見よ。不動産の評價は極めて困難なも

のであるが、その地に於ける有力者の援助を得れば大體のことはわかるであらう。

家については尙一般的外觀によつて概念を得ることも出來る。隣接町村若くは他の地方と比べて概して家が大きいか少さいか、材料が立派であるか粗末であるか。又附屬の建物が多いか少いか。門はどうか、屋根は、壁は。建築の新しさの程度はどうか、十年以内に建築されたものが全體の何割あるか。現に建築增築中のものがどの位あるか。

宅地の廣さが何程あるかは必ずしも資產の程度を示すとは限らない。それは職業によつて大差があるからである。例へば廣島縣の南部にある內海・三津口の二町を比較して見ると、內海町の一戶平均宅地面積は二畝四七九であるが、三津口町のそれは一畝二〇八即ち前者の半分にも足らない。これ前者は廣い平野に立つ半農半商の町であるのに、後者は谷灣の奧にある半商半漁の町だからである。又全國的に見ると岩手縣の一戶平均宅地面積は六畝七九、富山縣は四畝二二、而し

て高知縣は二畝五一といふ樣に北方ほど大で南國に赴くに從つて小となる傾向が著しい。これは氣候等の關係によるかも知れない。併し狹い範圍について比較する時には、宅地の廣狹は生活程度を示す一の有力な材料ともなり得るものである。

個人の家屋の外に更に公共的建物をも見よ。學校は立派であるか、役場はどうか。避病舍とか公會堂とか神社佛閣とか、凡て鄉土の人たち全體の支持によつて出來てゐる建物の狀況を他地方と比較して見よ。建築ばかりでは無い。道路も橋梁も公園も凡て住民財力の象徵物であると云つてよい。

土地には田・畑・宅地・山林等色々あるが、その時價は果して他地方と比べてどうであるかを見よ。又その所有者は凡て鄉土の人であるか、それとも他地方人の所有に歸してゐるものがあるか。これは又一方には鄉土の人の所有地が鄉土以外に存在するかといふことも調べる必要がある。そしてその兩者を比較してどちらが多いかといふことは、鄉土の資產を見る上に於て忘れてならぬことである。

それからそれ等の土地の中で耕地は何人によつて耕作されてゐるか。即ち自作が多いか小作が多いか。土地が極めて小數の富豪の手に集つてゐるか、それとも多數の人によく分配されてゐるか。これは貧富の懸隔を見る一標準であるから、大地主と純小作人との數を調べて見ねばならぬ。

動產は一層調査が困難である。勿論道行く人の服裝を見たり、一寸家の中を覗いて調度の模樣を見ても、その村の大體の富の程度を推測することは出來ないこともないが、それは單に比較的のものであり、又主觀的であるからもとより不正確を免れない。そこで數字にあらはし得べきものを數へて見ると、貯金・講金・保險・車輛・家畜等極めて限られた範圍にすぎない。たとひどの樣な方法をとるにしても、動產全部の評價を正確にすることは到底不可能であると云つてよい。

貯金は各戸について調べることは比較的困難であるが、鄕土全體の總額は郵便局なり銀行なりで或程度まで調べがつくであらう。講即ち賴母子とか無盡とか稱

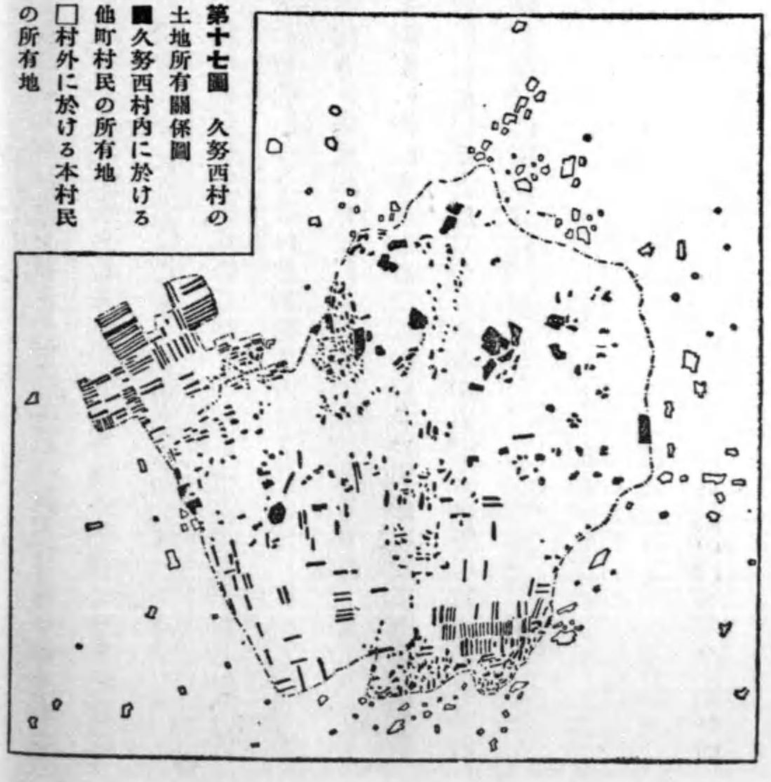
するものは、まだ取つて居ないものが資產であつて已に取つたものは負債であるが、これは各戸について聞くより方法はあるまい。船や車輛は役場にでも統計があるが、家畜・家禽等は兒童をして各戸調査をさせるがよい。

投資額はその地方の會社等について株式の名義を調べると大體はわかるが、併し大都市等にあつて凡ての會社につきこれを調査することは非常に困難であらう。又個人間の貸付金の如きは到底調査は出來ない。負債も亦同樣であつて、個人はその負債額を決して正直に告白するものではないし、銀行に於てもその貸出高といふものは容易に言明しないことになつてゐるから、これ等はほんの蓋然的な推測を下すだけで滿足しなければならぬ。

土地所有關係圖（靜岡縣久努西村）

この村は田畑兼營の農村で、最も興味を惹く事象は村內に於て他町村民の所有せる土地が頗

る多いことで、實に全村面積の約五分の一に當つてゐる。かゝる土地を遠州地方では「越石」と稱する。これを圖示すると村内に於ける他町村民の所有地が文理構造を呈し、又久努西村の村民も自村緣邊の隣村に土地を求めて進出してゐる。併しこの圖を見ると他町村への進出よりも自村の越石の方が多いから、それだけこの村は富裕でないこと



第十七圖　久努西村の土地所有關係圖
■久努西村内に於ける他町村民の所有地
□村外に於ける本村民の所有地

になる。併し勿論これのみで村の富力がわかるといふわけではない。富力は土地の廣さ及び價値程度と人口との相關關係であるから、僻地では富裕でなくても他村民の侵入の無いこともあらうし、たとひ他へ進出が著しくても、人口が過飽和を呈してゐる樣な處ではやはり富裕とは云はれないことになる。（「地理教育」第十四卷第五號所載、佐々木清治氏「鄕土地理研究の理念」より）

收入

收入の調査は各戸についてするものと鄕土全體についてするものと兩樣の方法がある。どちらも絶對的の正確を期することは出來ないから、兩方法を併用して見なければならぬ。各戸について調べる場合は資産收入・職業收入・副業收入・臨時收入及び雜收入等に分つて記載して貰つて、これを集めて統計をとるので、資産收入といふのは株の配當、小作料、家賃等を指し、職業收入では生産高からこれに要した費用を控除する。即ち農業では肥料代、工業では原料代・動力費・勞銀

等を差引いたものでなくてはならぬ。併し農産の如く金に換へるのでなくして、直ちに自家の用途に充てるものでも、凡て金額に見積ることを忘れてはならぬ。勞動者の勞銀の如きはその全額を計上すべきであるが、所用の道具代とか往復の電車賃等の如きはこれを控除してよい。他へ出稼してゐるものからの送金の如きは副業若くは臨時收入の中に計上すべきであらう。

郷土全體として統計する場合にも大體同樣である。先づ各職業別に生産高を調べる。これは何處の村でも生産統計といふものがあつて、極めて精細な分類によつて年々調査が出來てゐる。ただその生産統計は生産物の總價格であつて原料代や動力費・勞銀の如きものが控除してないから、これは修正しなければならぬ。職工の賃金は工業生産の中から控除しても、別に職工の收入として計上するから差支はないが、農業に於て自家勞力を控除すると、他方に於て勞銀としての計上が無いから不合理となつて來る。農業の肥料代を農業生産高から控除する場合には

その肥料が若し郷土内に於て生産されるものであると、肥料の生産高として計上されるし、肥料の原料が矢張り郷土の産であるとき、肥料生産高からその原料代を控除しても、一方原料の生産高を計上すればよいことになる。職工の勞銀から往復の電車賃を控除すれば、それは電鐵會社の收入として計上さるべく、その中から車掌運轉手の勞銀を差引けば、それは車掌運轉手の收入として計上される。凡てこんな風にあらゆる生産高は決して洩れることなく、又重複することなく計上される樣に仕組まねばならぬ。この點市町村の生産統計なるものは不完全を免れない。

最も困難を感ずるのは資産收入である。又商業の收入、醫師や辯護士などの樣な自由業者の收入も推測が困難であるが、これ等は所得税や營業税の方面から調べてもよい。税務官吏の推測は比較的正確に近いと云つてよいからである。ただ免税點以下のものについては統計が出來ないから、所得税の總額から直ちに收入

の總額を推算するわけに行かぬ。大財産が多いと一方に貧乏人が多くても所得税は非常に多くなるが、富の程度が平均してゐて所得免税點の附近のものが多數を占めてゐると、一般の富の程度は高くても所得税は非常に少いといふ結果を來すことになるからである。

生活費

生活費とは生活に必要な一切の費用を指すので、第一次的なものとしては米麥代・副食物代・調味料・家賃・衣服代・光熱費等があり、第二次的なものに公課費・教育費・交際費・通信交通費・衛生費等、第三次的なものに酒代・煙草代・菓子代・娯樂費等がある。又外に臨時的なものとして醫療費・寄附金・修繕費・借金利子等も計上せねばならぬ。こうして生活費の全體を、各戸について聞取り若くは報告を求めるのであるが、もとより正確を期することは非常な難事である。計算の單位は

俸給生活者などならば一ヶ月としてもよいが、多くの場合季節によつて非常な差があるから、一ヶ年を單位とすることが適當であらうと思ふ。

郷土全體としての生活費を推算するには、生産高と輸出入との關係から見て行かねばならぬ。今假りに周圍から全く關係を斷たれた經濟的孤立の村があるとすると、その村の人たちの生活はその村の生産物で維持するわけで、生産物が不足すれば飢餓のために人口の減少を來すであらうし、若し又生産物が多すぎるとせば、それは生活に不用なものとなるから、結局村民の怠惰を招いて生産の減少を來すべき筈で、生産高と消費高とは同一とならねばならぬ。故にこの場合生産高を人口で除したる商は生活程度を指示することゝなる。

ところで實際にはそんな孤立の村は無いから、生産の剩餘があればこれを村外に賣り出し、その代金を蓄積するか又はその金で他村から物を買ひ入れるであらう。買ひ入れることはそだけ生活に充當されるのであるから、買入が多ければ生

活程度は高く、賣出が多ければ低い勘定となる。併しながら賣出よりも買入の方が多い場合、即ち入超といふことになるとそれだけ他村に對する借財が增すわけであるし、これに反して出超は富の蓄積となるのであるから、借錢して生活程度を高めるよりも、生活程度は下げても富の蓄積をなすのが堅實な生活狀態と云はねばならぬ。

併し物資の輸出入の外に現金としての出入も考へねばならぬ。國家で云へば所謂貿易外勘定といふものである。即ち他鄕を旅行する人の持つて行く金、他鄕の人が移住して來て儲けて持つて歸る金、遊學する子弟などへの送金、國庫や縣へ納める稅金などは正貨の輸出であり、他鄕の人が遊びに來て落す金、他鄕へ出稼して儲けて歸る金、他鄕から來てゐる人たちの取り寄せる金、國庫や縣から下附される補助金などは正貨の輸入である。そこで物資の入超があつても貿易外正貨の入超で決濟が出來れば村は貧乏にならないし、物資は出超でも貿易外正貨の出

超が多ければ結局富の流出といふことになる。

この關係は次式の通りとなる。

生産高＋輸入高－輸出高＝生活費＋輸出超過

輸出超過の場合……生産高＝生活費－輸入超過

輸入超過の場合……生産高＝生活費－輸入超過

物資の輸出入超過を貿易外勘定にて決濟して〈正貨流入となる場合…蓄財 正貨流出となる場合…借財

尤も正貨の流入といふ中には他村から借金して來る場合があり、反對に正貨流出と云つても他村への貸付といふことがあるから、これだけは除外して考へなくてはならぬ。又正貨流出となる場合にもそれだけ全部がすぐに借財になるとは限らず、これまでに蓄積した富を消耗して行くといふこともあり、正貨流入の場合にも借金を支拂つたりすれば全部が蓄財とはならないわけである。

生活程度と貧乏線

生活程度は生活費の多少によつて大體測定することが出來るが、併しそれのみではまだ充分と云へない。即ち生活費の外に富の蓄積がどれだけあるかと云ふことを考へねばならぬ。たとひ日常粗衣粗食に甘んずると雖も、多大の富を蓄積するものは心に大なる慰安があり、精神的に高度の生活をなし得る可能性があると云つてよい。勿論貧困なるもの却つて高潔なる心事を有し、富裕のものこれに反することもあるけれどもそれは例外と考ふべきである。衣食足つて禮節を知り、恒産あるものに恒心あるは今も昔も變りはない。

資産の蓄積極めて少く、勞働によつて得る收入のみを生活費にあてゝ居る場合には、收入の多寡を以て直ちに生活程度を測定し、一定の收入高を以て貧乏線と定めることも出來る。安部磯雄氏の指導によつて自由學園の學生が東京市外高田

町の貧乏線について調査した時には、大人一人に付月廿五圓、一人を增す毎に十圓を加へ、八歳以下七十歳以上の人は半人分五圓とすることゝし、家族數に收入を照し合せて、この標準に達しないものを貧乏圈內と定めてゐる。勿論これを他の町村へすぐ適用することは出來ぬが、一例としてこゝに引用するのである。

その結果によると四八七戸の中に五二九世帶あつたが、その中の九六世帶が貧乏線以下の生活であつた。馬力と稱する運送業者などは、家は隨分汚ないけれども厩も自分のものであり、割に豊かな收入をもつてゐるのに、普通の家に住んでゐても家族の多い下級の勤人などは、服裝その他の體面もあるし實際苦しい生計となつてゐるのを見たといふ。(自由學園「わが住む町」參照)これは收入の點のみから見たものであるから、多少不適當と思はれる結果の出るのも當然である。

ある農村の生活程度(廣島縣佐伯郡沖村)

この村は廣島灣内にある能美島の西岸を占むる一小村である。本籍人口は六千を超えてゐるが現住人口は三千六百に過ぎず、近年殆ど増加しない人口飽和の村である。土地の傾斜が大であるのと灌漑が不便なために水田は少く、耕地總面積二百七十町中畑が百八十一町を占めてゐる。住民の職業は農が八三%で、その他は工業・商業・交通業等である。

一ケ年の生産高は農産が十八萬一千圓、畜産が五千圓、蠶産が一萬二千圓、林産一萬一千圓水産一萬六千圓、鑛産一萬五千圓、工産十二萬六千圓で總計三十七萬圓となつてゐるが、この中工産は主として織物で、原料は他から取り寄せてゐるからこれを差引かなければ眞の生産額とはならない。これを約五萬圓とすれば、その他は悉く純粹な村の産物であるから、結局生産總額は三十二萬圓となる。

ところで輸出はどうかと見ると、農産では西瓜が廣島市へ出るがこれは近年獸地のために不作となり、煙草・除虫菊等が主な換金作物で、柑橘も有望とされてゐるがまだあまり盛でない。果樹畑は現在十六町ばかりである。養蠶は稍盛で桑畑十町を有するが、近年の繭下落で打撃は甚しい。水産は主として副業として行はれてゐたものであるが、近年は魚族の減少が甚しいので次第に衰微し、輸出能力極めて微々たるもの、鑛産は黑神島の石材と海岸から出るマサ土(花

崗岩の風化土)が廣島に輸出せられる。工産の織物は大部分輸出であるがこれも近年不況で産額激減した。かくて輸出の總額は精しい統計がないが、推定約十四五萬圓位であらう。

一方輸入の方を見ると米は主として朝鮮白米を輸入し、その額二千五百石、糯米の輸入も亦多い。野菜類も多く廣島方面から逆輸入され、肥料として硫安と塵芥と干鯡、織物原料の綿糸その他服飾品、副食物、雜貨等で、總計凡そ十七八萬圓と見積られてゐる。かくて年々三四萬圓の輸入超過であるが、阪神方面に出稼してゐる紡績女工の送金が凡そ六七萬圓あり、瀬戸内海を上下して石炭その他の雜貨を運送する帆船の運賃收入が四五萬圓はあるから、入超はこれで決濟して充分の餘裕がある。

生産額と入超額とを合計して人口に割り當てゝ見ると、一人平均の生活費は約百圓となる。又入超額を貿易外勘定で決濟して正貨の流入七八萬圓であるから、一人平均二十一圓ばかりの蓄財となつてゐる。これは生活費の五分の一に相當するのだから決して少いと云へない。

そこで村民の生活狀況を瞥見すると、決して疲弊してゐるとは思へない。數十年前までは出稼者といふものが少かつたので、その生活程度は隨分低いものであり、本陸部の人たちからは『島の者』と云つて一種侮蔑の目で見られて居た。然るに近年生活程度の向上は極めて著しい

と彼等自身も云つてゐる。その一例として從來麥と甘藷のみで生活してゐたものが米飯を食する様になつたので、米の輸入高は年々增加するばかりであり、又糯米の輸入の多くなつたのも正月その他に餅を澤山搗く様になつたからである。又家屋は藁葺が少くなつて半數以上が瓦葺となり、新築增築の家も亦少くない。上級學校への入學者も近年增加したのはやはり財力の豐かとなつたためと、一つは汽船で廣島へ通學が出來る様になつたからである。そこで本陸部の他の町村と比べて見ると、子供の服裝等に於ても決して遜色がないばかりか、食料などは寧ろよいのではないかとさへ思はれる。

併し近年の不況は生產品價格の下落となり、出稼者の失業歸村となり、海運も亦缺損が多いといふ有様で、貿易外勘定も著しく不良となつた。しかしそれでも生活の程度は俄に下るものでないから、蓄財の消費で一時を凌ぐの外はないので、やがてはそれも無くなつて借財となる時期が迫つて來つゝある。そこで農民の中には肥料を施すことを停止しようとしてゐるが、そんな掠奪的な生產が長く續くわけは無く、數年の後には地力が消耗し盡してどうにもならぬ行き詰りを出現するであらう。これは已に村の先覺者の憂慮しつつある處で、大に村民の反省を促さなくてはならぬ。

公共經濟

個人の經濟と同様に公共の經濟についても調査せねばならぬ。町村有財產とか部落有財產とかいふ様なものが多ければ、その地はたしかに富有であると云ひ得る。この公有財產から得る收入によつて村の財政を支へて行くために、村稅を一切取らぬといふ村さへもある。その財產の種類は何か、共有とした動機は何か、その後變遷はどうか、それを基本財產として積み立てたりするために誰が最も骨を折つたかといふ様なことを詳しく調査して置きたいと思ふ。

次に市町村の歲入歲出の狀況を調べねばならぬ。歲入の中で何が最も有力なものであるか、歲出の中では何が最も大であるか、それ等のパーセンテージをとつて他と比較して見たならばその地の特相といふものが判明するであらう。そうした上で鄉土の實狀をよく見なければならぬ。衞生狀態がわるくて傳染病などが澤

山出る樣だと、衞生費は非常に嵩むものであるし、道路や橋梁が非常に不完全であるならば、土木費を增加してこれを改修せねばならぬ筈である。

併し町村の歲入には一定の限度がある。いくら費用が澤山いるからと云つても、無制限に課稅することは出來ない。故に民力が低ければ隨つて歲入も少く、ために學校は壞れても修繕が出來ないし、橋が落ちても架へ換への出來ない樣なことがある。そんな村が所謂貧乏村である。ところがこゝに注意すべきことは、貧乏村の住民が必ずしも貧乏であると限らないことである。例へば廣島縣安藝郡坂村などの如き、村としては誠に貧乏で何一つも事業が出來ないと云つて歎息してゐるが、聚落を見ると何れも富豪の樣な立派な構への家ばかりで、一向に貧乏人らしいものが見つからない。そこでよく事情を調べて見ると、村民の大部分は布哇又は北米移民の成功して歸つたものばかりで、現に家族の中の何人かが移住してゐるものも多數に上つてゐる。そこで彼等は立派な家を建て裕福な生活をしてゐ

るが、土地が狹くて人口稠密であるから土地を買入れるといふことは殆ど出來ない。故に多くは現金を銀行に預けたり信託に付したり、乃至は株を買つて持つてゐるといふ狀態で、別に事業などもあまりやらないから、課稅の對照物といふものがなく、そのため歲入が少くて困るのだといふことである。こんな例はこの地方には澤山ある。個人が富んで村が貧乏するとは妙な話であるが事實だから仕方がない。

これに反して個人は貧乏でも村の富んでゐる處もある。即ち共有財產の非常に多い場合である。そんな場合には個々の家は誠に粗末であり、人々の服裝なども頗る見すぼらしくても、役場や學校や避病舍などは堂々たる建物であり、道路や橋梁は非常に立派で、村人は絕へずその恩惠を蒙つてゐるのである。

地圖について

地形圖

郷土地理の研究にはどうしても先づ正確な地圖を手に入れなくてはならぬ。たとひどれほどよく知り拔いてゐる郷土であつても、地圖を離れての研究は思はぬ錯誤を來す元であり、又どうしても不正確を免れることが出來ない。

精しい地圖は町村役場にある。併しそれは田畑を一枚一枚に測量して書いたものであるから、決して正確とばかりは云はれないし、又土地の高低などは殆ど不明である。そこで陸地測量部の地圖によるのが最もよい。測量部の地圖は五萬分の地形圖が全國に亘つて完成してゐて、何處でも得られるものとしては最も詳しい。中には數十年前の出版もあるが、新しく測量しなほしたり、鐵道なんかを補

入した處もある。たゞ要塞地帶のみは發賣が禁止されてゐるから手に入れることが出來ぬ。

そこで若し郷土が要塞地帶である場合には、二十萬分一帝國圖より大きい縮尺のものは求められぬ。これでは等高線が極めて不明瞭であるし、凡てが簡單で不正確であるから狹い郷土の研究にはあまり役に立たぬ。たゞ一郡一縣を大觀する樣な場合には便利である。ではどうすればよいかと云ふと、この二十萬分一圖を基礎として四倍位に擴大し、實地について簡單な測量、無論目測か步測の程度で測量して、これに記入して地形圖を作るの外はない。尤もこの場合その筋の許可を得なければならないが、それは簡單な手續で比較的容易に得られるのである。

吳鎭守府に關するものは次の通りである。他の要塞に於ても大差はない。

（用紙半紙白紙全葉）

昭和　年　月　日

住所
氏名㊞
生年月日

吳鎭守府司令長官殿

測量（撮影・錄取）願

一、目的　……（研究、娛樂、營業等）
一、期間　自昭和　年　月　日
　　至同　年　月　日（六ケ月以內ノコト）
一、區域　……（町村名摘記ノコト）

右御許可相成度出願ス

こういふ願書を出すとすぐに許可書が來る。許可書には若干の制限を付せられることがある。そこで現地で作業する場合には、常にこの許可書を持つて居らねばならぬ。又出來た圖面等はすぐに提出して檢閱を經なくてはならない。以前は取締が非常に嚴重で、出願者の身元や素行までも憲兵が內偵したりして居たが、

近年は餘程寬大になつた樣である。殊に敎育上に必要な學校の事業であるから、遠慮なく出願するがよい。手續を怠つて迷惑を着るのは馬鹿らしいことである。

內地の主要部には二萬五千分一地形圖がある。これは製版が割合に新しい。そして將來全國に及ぶ筈である。臺灣も主要部は殆ど皆出來てゐる。二萬分一のある處もあるがこれは圖が極めて古い。大都市近傍では一萬分一がある。又一萬分一五色刷番地入といふのもある。一萬分一といふ縮尺だと、市街地でも極めて明瞭で正確である。

地形圖が得られたならば、必要に應じて更にこれを擴大せねばならぬ。五萬分一ならば二倍乃至六倍位にするがよい。鄕土の廣狹にもよるし地形の狀態や家の多少にもよるから一概には云へないが、大體一ケ村が半紙一枚位の大きさにならぬと色々の不便がある。縮尺から云つても一萬分一內外になれば相當詳しいことを書き込むことが出來る。但し家の多數込んでゐる所では、部分的にもつと擴大

して五千分一以上の地圖も作らねばならぬであらう。

重ね地圖

地理的現象の原因結果を推究するには、各要素のみを描いた地圖を重ね合せて見ることが最も近道である。これを重ね地圖式の研究法といふ。即ち地形と氣候との關係は地形圖と氣候圖とを重ねて見、農業と地形との關係は農業地圖と地形圖とを重ねて見ると云ふ風にするのである。

適當な縮尺の鄕土地圖が出來たならば、それの輪廓と主な川筋位を示した基本(ベース)地圖(マップ)を一枚作つて、それから各要素を示す地圖はその上にバラフイン紙(書物の上包みなどに使つてある透明な紙)を覆ふて書くのである。地形圖は等高線と川のみを、氣候圖ならば等溫線圖とか雨量圖とか風向圖とかを別々に、產業圖と云へば米の產額の分布圖だとか、米の反當收量の分布圖だとか、或は自作小作別の圖だとか

云つた風に、なるべく單純な地圖にしなければならぬ。一つの地圖に何も角も書くといふことは研究上に混亂を來すから大禁物である。

そこで例へば米の反當收量分布圖を地形圖と重ねて見れば、高い處がよく出來るか低い處がよく出來るか、海岸か谷底か、どんな地形の處に出來がよいかといふことがわかり、地質圖と重ねて見れば地質との關係がわかり、地下水等高線圖と重ねて見れば地下水の高い處がよいか低い處がよいかの問題も解決すべく、人口分布圖と重ねて見れば家の澤山ある地方と家から遠く離れた地方とどちらがよく出來るかがわかるであらう。たゞしこうした場合に手取り早く判斷のつかない場合が中々多い。地勢の高い處にもよい處があり、低いところにもよい處があり、その間の關係がどうもはつきりしないといふ樣な事がある。そんなときに成るべく自分の都合のよい樣にこぢつけて、結論を急がうとするのは人情の自然ではあるが、科學的研究を生命とする者は嚴に戒めなくてはならぬ。多分こうだら

うといふ樣な豫感が強いと、何も角もそれに都合よく見え易いものであるから、出來るだけ虚心坦壞、以て眞相を誤りなくつかむことを要する。そして結局わからないことはわからないまゝでもよい。世の中のことが凡て學問の力で判明してしまふものでは無い。殊に地理學はまだ建設の途上にあると云つてもよい樣な至つて若い學問であるから、こういふ原因でこういふ結果といふ樣な、適確な因果關係の判然したものは極めて少いのである。僅かに地球上の一點ともいふべき狹い鄕土の事象の中に、そんな原理が手取り早く發見されよう筈がないと云つてよい。若し何等か見つけることが出來たら、それは或は偶然かも知れないし、少くとも蓋然性、可能性といつた程度のものと考へて置かなくてはならぬ。

併しそうする間に人間の生態が次第に判然として來る。そして他地方と比較研究をやると、自ら鄕土に於ける人間の自然に對する順應樣式が巧であるか拙であるかゞわかる樣になつて、そこに鄕土改善の方策も生れるわけである。鄕土研究

家はそこまで徹底しなければならないし、兒童にも亦その型を眞似させ、研究方式の會得と眞の愛鄕心たる感情と意志との涵養をはからなくてはならぬ。

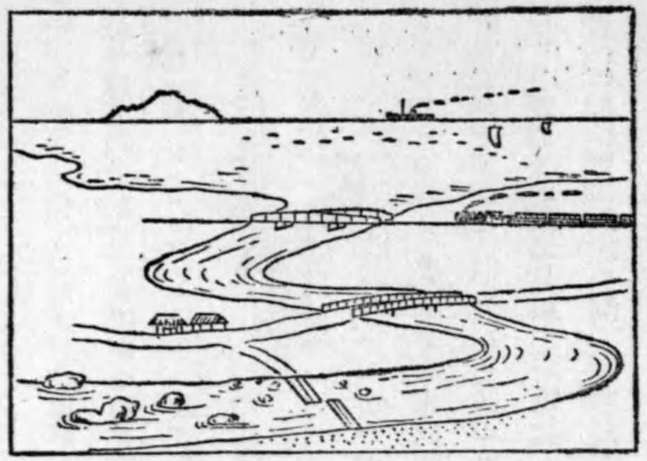
兒童の描圖

國語の教科書は、已に尋常の三學年から地圖を讀むことを教へる樣に仕組んである。教師はこれを利用してすぐに鄕土の一部を製圖させやうと試みたりする。併しよく考へて見ると、この程度の子供にはまだ眞の地圖を呑み込ませることは至難であると思ふ。寧ろ高い山の上から、若くはビルヂングの屋上から斜めに見下した形そのまゝが、子供の心理に適合して居はせないだらうか。德川時代の地圖は多く道路から見たまゝを地圖にして居た。山は山の形をそのまゝ、家は家の形をそのまゝ、道路の一方が北を上にして居れば、他方は南を上にして描くといふ風のものが多かつた。明治になつからでも一般人の地圖の教養が低かつたから、

日清戰爭頃の滿洲戰局地圖といふものは、今日から見れば地圖ではなくて繪であつた。日露戰爭の頃になつてもまだその傾向が著しかつたが、その後國民一般の地圖の觀念が進んで來たので、今では純粹の地形圖を誰でもが理解する樣になり、新聞に出る戰局圖にも鳥瞰圖式のものは殆ど見られず、たゞ鐵道省で出す旅行案内に、吉田初三郎氏によつて創められた新式の鳥瞰圖があつて、昔の名所圖繪が新しい形で蘇つてゐるのが目につくのみである。

讀圖力發達の歷史を顧みてもそうである。いくら今日國民一般の讀圖力が進んだからと云つても、始めて地圖を學ばんとする幼兒に、いきなり○や△や卐や円の樣な符號を提供することは愼まねばならないであらう。子供の心理に適した樣な繪の地圖 (Picture Map) を先づ與へて、それから順次に正しい地圖へと導くべきだと思ふ。

繪地圖と併行して模型地圖も亦必要である。これは一方敎師の手によつて正確



第十八圖　繪地圖の一例

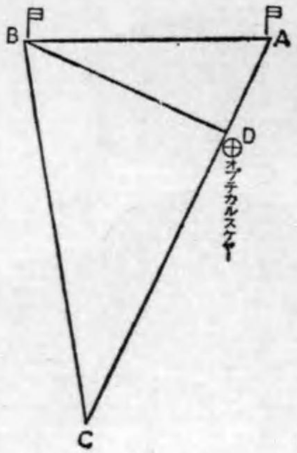
なものを作り、一方兒童をして砂とか鋸屑とかで作らせるがよい。正確な模型を作るには積み重ね式が一番よい。即ち等高線圖を基本とし、一本の等高線毎に一枚のボール紙を切り拔き、それを積み重ねて貼り付け、その上に紙をはり、地物を記入し彩色を施した上でニスを塗ると美しく出來上る。一萬分一の地圖に等高線十米に付一本であるとすれば、ボール紙の厚さ一粍で恰度よいわけであるが、地形の極めて嶮峻な所でない

限り、ボール紙の厚さはその二倍乃至三倍位にする方がよい。即ち垂直の縮尺を水平縮尺の二倍位にした方が、地形の凸凹がよくわかるのである。

五年以上の兒童には普通の地圖が讀める筈であるが、それには又測圖・製圖の演習も必要である。學校又は家庭を中心としてその附近の測圖をやらせ、それによつて道路を中心とした路傍地圖や、或地域を纏めた略地圖などを書かせるがよい。路傍地圖といふのは道路を歩きながら目測と歩測によつてその兩側のみを記するのである。即ち家とか田とか畑とかの區別を明かにし、橋や小溝の位置を示し、路傍の並木や獨立樹・抽出樹、それから煙突とか火の見櫓とか電柱とかを記すのである。高等科にもなつたら卷尺で比較的精密に距離を測り、出來得れば簡單なポケットコンパスを使つて方角をも正しく記載せしめたい。田や畑の一枚毎の形を寫生する場合にも同様である。

第十九圖　ポケットコンパス

田畑などの一枚一枚の面積を測るには、三角形をつくつてその底邊と垂直線との長さを求めればよいのであるが、左圖に於てACの長さはすぐわかるがD點を確定することは困難である。併しそれには極めて重寶なオブチカルスケヤーと稱する道具がある。この道具の小穴を覗きながらAC線上を歩いてゐると、D點に來た時にはA點の旗とB點の旗とが同時に見える樣になつてゐる。D點より前に進んでも後に退いても、Aの旗とBの旗とは決して同時に見えないのである。

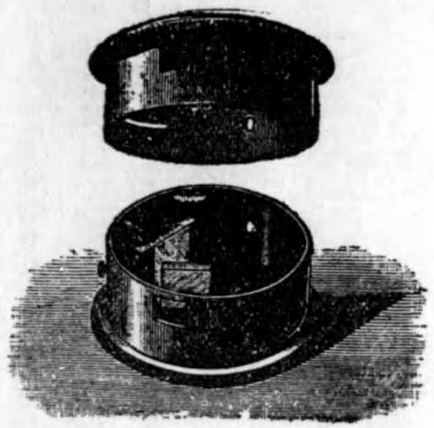


第二十圖

郷土の色々な事象を調査して分布圖を作らせるには、基本地圖を與へてこれに記入させればよい。併し低學年にあつては主な道路などは全部書き入れ、場合によつては個々の家を全部記入したものでなくてはならない。例へば藁屋根の分布

を調べるとか、生垣の分布を調査するとかいふ場合には、已に家の分布だけは明かにした地圖を與へないと作業が非常に困難となり隨つて又不正確となる。

それから田と畑と山林との分布とかいふ樣な地圖は、實地調査は非常に困難であるし、又已に調査は出來上つてゐる筈であるから、たゞこれを線で區分した地圖を與へ、これに着色するだけの作業で充分である。地質圖の如きも亦これと同樣の取扱にしたい。その他尙地圖の敎育について云ひ度いことは澤山あるが、鄕土調査の範圍を脫する樣になるから、暫くこれを他日の機會に讓ることゝしよう。



第二十一圖　オプチカルスケヤー

兒童に課する鄕土地理調査案

鄕土地理の調査といふことは、やれば一學年からでもやれないことは無い。二學年の讀本には已に『私の村』といふ一課があるから、それに關聯して村や町の略圖を描かせたり、その概形を調査させたりする人もある。併しそれ等は今深くは論じないことゝして、假りに四學年から始めて高等科までの間に、一通り鄕土調査の材料を配當して見た。同じ材料が各學年に重ねて出て來るのは、次第にその內容を深めて行くつもりなのであるが、こゝにはほんの要目的に摘記しただけでまだ未定稿である。その詳細に至つては更に經驗を重ね考慮をめぐらした上で、別の機會に發表したいと思つてゐる。

尙横の排列は取扱の順序を示したのではなくて、たゞ本書に說いた要項の順序

にならべたのみである。國語・理科・地理・國史等各科との連絡を考へ、又季節や偶發事項によつて適當な順序に排列すべきであらう。

第四學年	第五學年	第六學年	高等科
我が家の間取と名稱	雨はどう流れるか	わが家の立地	わが家の構造
我が家の周圍の有樣	我が家の材料は何か	屋敷及び附近の平面圖	間取とその改良案
わが家の立地	家の平面圖	附屬建物とその用途	家の立地の批判
學校の門前聚落	朝夕聞える音は？		
日出日沒の位置	聚落各部の立地	郷土全體の地形的位置	水面との關係
神社とその附近の景觀	郷土の略圖		交通線との關係
寺とその附近の景觀	港又は驛附近の景觀	屋根の材料とその分布	郷土の各地域とその特相
		家の散布度	垂直形態

墓地	郷土の中心地	郷土地圖	
わが家の先祖	洪水・旱魃の歴史	道路の變遷	郷土の偉人
	舊家	郷土の發展伸張の跡	産業の變遷
	史前の遺跡		古地圖
わが家の家族	人口の性構成	人口增減	人口密度
郷土の人口	職業及年齢構成	海外移住	分布
		季節的移動	
鳥・蟲、ためになる動物	川・海岸・丘・崖・堤	各部の土質	水・堤防・放水路・灌漑水路
花・野菜・果物	土の色	溫度觀測	地下水
寒風・涼風の方向	雨の降る時期	風・雨・雪・霜の時期	氣溫・雨量・風向
	井戸水の深さ	益蟲害蟲	土質とその改良

田・畑・森の位置	空地・荒地・平野・竹藪	
田・畑の形	等の位置分布	
	耕地整理	
わが家附近の職業分布	各職業と生産力	
水車	主要物産	
煙突		
主な作物	土質	
主な家畜	肥料	
主な魚類	用水池及用水路	
	林産	
田・畑の位置と地形及び水の關係	耕地擴張の餘地	
	土地利用度	
開墾地	微地質・微氣候との關係	
埋立地		
勞働力の分配	動力利用の程度	
特産物		
作物の種類と輪轉	土壤	
稻・麥の作り方	農業經營	
鷄の飼ひ方	副業調査	
水産	養蠶	

工場	職工	
レッテル蒐集	動力	
大工・左官・鍛冶屋		
廣告蒐集	呉服屋・米屋等專門店	
商店の位置	とその位置	
	卸店	
	市場	
主な食品調	衣服の種類・形・材料	
飲料水	食物の産地	
薪炭		
工場の出來た理由	資本及び技術	
原料・燃料	家庭工業	
家庭工業	美術工藝	
商店の種類	商品の動き	
港の活動	經濟及び金融機關	
輸出品輸入品		
商圏		
季節と食物	嗜好品	
採暖及照明法	住居	
年中行事	盆・正月の行事	
衛生施設	新聞雜誌	

傳染病 玩具	塵芥・不潔物の處置 方言 病氣と醫師	出生・結婚・葬式等の行事 宗教・教育・娯樂	自治組織 隣村との共同關係 郷土藝術
雨具 臺所道具	農具 交通具	工業諸機械 手工用具 漁具	機械及動力 生活の科學化
交通雜沓の場所 乘り物 ポスト 道路の幅	通學道路スケッチ 水陸交通機關 道しるべ 路面	道路と土質 交通量調査 郵便物	交通と地形 交通路の分布 交通改善意見
自分の學資出納	自作小作	生産以外の收入	資産

	生産力	借金及び貯金 郷土外よりの送金 生活費	財政 投資 貧乏線

郷土地理の調べ方と實例 終

昭和七年一月十五日印刷
昭和七年一月十八日發行

郷土地理の調べ方と實例　【定價一圓八拾錢】

著者　西龜正夫
東京市麹町區下六番町四十八番地

發行者　岡本正一
東京市神田區錦町三丁目五番地

印刷者　太田米吉
東京市神田區錦町三丁目五番地

印刷所　合名會社　太田印刷所

東京市麹町區下六番町四十八番地
發兌　厚生閣書店
振替東京五九六〇〇番
電話九段三二一八番

具體化せる 小學地理 教材と教授法

西亀正夫先生著

★全三册★

尋五用（改訂新版）　價　一圓九十錢
尋六用（改訂新版）　價　二圓十錢
高一・二用　價　二圓六十錢
（送料各册十二錢）

地理は生きた學科として、小學教育に於て最も重要視されねばならぬ。しかるに從來この地理教科教授が比較的等閑に附せられてゐたのは他に種々なる理由もあるが、主として地理の教材には適當なる參考書なく、又あつても極めて膨大にして直ちに教壇で役立たしむることは出來なかつたからである。玆に於て直ちに役立つ地理の教材書參考書が痛切に要求されてゐる。これ等の悲しむべき現狀に對し、我が地理學の權威西亀正夫氏は深く鑑みる所あり、尋常小學地理書兒童用を毎頁四分の一に縮寫して本書一頁中片隅に挿入し、該ページに對する主要教材の補説兒童の質問しさうな所、挿繪の解釋、新しい統計、教科書の誤謬に對する注意を遺漏なく同頁中に收めた苦心の著述を完成した。代價は犧牲的低廉である。尚卷末には著者の貴き體驗の結晶たる地理科教授法の貴重なるテーゼを添へ指導書としては獨特のものである。正に全國各小學校は原則として必ず一本を備ふべき書である。

讀書週間推薦各家庭學校兒童文庫必備書

少年日本地理文庫 完成

橋本賢康先生著　四六判五號ルビ付・各二五〇餘頁・地圖及挿圖五〇・凸版三度刷函入・價各壹圓五拾錢・送料各册拾二錢　十二卷完成

小學校の教科の中で地理位兒童の活動性を滿足させる科目はないであらう。地理そのものが既にさうであるのに、地圖に據實に寫實に統計にあらゆる具體資料をとゝのへて賜下されたる本書は正にかなりの寫地見學である。殆ど無資の全國旅行であり、また愛國心涵養の資料提供でもある。本書に面白い地理の副教科書、一册づゝ自由に買へます。

少年世界地理文庫 完成

西亀正夫先生著　四六判五號ルビ付・各二五〇餘頁・地圖及挿圖五十・石版美裝函入・價各壹圓五拾錢・送料各拾二錢　十二卷完成

少年に與へる世界地圖の興味ある讀物は、今まで一册もなかつたゝ以來、潮のやうな歡迎を受けたのも當然である。好奇心と旦像とを心の全部としてゐる兒童にとり之ほど健全な有益な讀物は又とあるまい。世界心の教養は新教育の掲げる一つの目標である。されば本書の問題によりて兒童の心は、恐らく國際交歡の翼を巨大に伸長させるであらう。

好評噴々

1 臺灣	3 九州	5 中國	7 近畿	9 中部	11 滿洲
2 朝鮮	4 奥羽	6 四國	8 北海道	10 樺太	12 關東

好評噴々

1 支那	3 イギリス	5 アメリカ	7 フランス	9 印度	11 イタリヤ
2 ブラジル	4 ドイツ	6 ロシヤ	8 南洋	10 北歐	12 濠洲

圖書目錄送呈

東京市麹町區下六番町四八　厚生閣書店　振替東京五九六〇〇番　電話九段三二一八番

KOSEI KAKU・KOSEI KAKU・KOSEI KAKU・KOSEI KAKU・KOSEI KAK

★郷土教育に關する著作★

KOSEI KAKU・KOSEI KAKU・KOSEI KAKU・KOSEI KAKU・KOSEI KAK

教育の地方主義

栗山周一氏著

生活それ自らを考へずして教育を說くことは不可能である。生活なし能はざる者には、先づその生活を指導しなければ、その教育の實績の向上は望み得べくもないではないか。本書は我國民の九割を占むる一般プロレタリアを前にして、現代教育の進むべき方向を指示せる名著である。地方教育に關心を持つ人々の必讀書！

四六判二五〇頁布裝
價 一圓八十錢
（送料十二錢）

農村教育の新理想

小川友吉氏著

人口問題と食糧問題と、而して農村問題とは、今やあらゆる教育家の直面すべき深刻なる現實問題である。本書は、さうした農村に關するあらゆる諸相を究明し、農村教育の今後の方向を指示せるものである。農村の現實に即し、その理想を實現せんとする熱意あるの士は、一度本書を手にして、その經綸にふれられよ。

四六判三〇〇頁布裝
價 二圓十錢
（送料十二錢）

當代教育の現實を觀る

エデュケーショナル・クォーターリー（No.2）

本書の內容については次の目次を一見された丈で十分であらう。――「教育者の危機」坂本功・「階級以前」城戸幾・「教育現實相の索引」齋藤桑治・「裏返しにした教育」木村文助・「教育の現實を見る」三浦成作・「この事實を何と見るか」池田龜生・「沒落期に於ける教育市場」上田庄三郎・「教育に安住して」荻野弘。

菊判四〇〇頁美裝
價 一圓九十錢
（送料十二錢）

郷土教育の經營

佐藤隆德氏著

現代の教育は盲目的であると同時に求心的だ。普遍性を究明すると共に特殊性に根ざさうとする。近時遽かに擡頭した郷土教育は正しくその求心の具象であり特殊性の如實相だ。郷土！郷土！そこに生え育つ教育こそ眞に生活的・生活實情的である。郷土を忘れた教育は、人形の製造だ。見よ、本書に溢るる郷土教育の實相を！

四六判三〇〇頁布裝
價 二圓
（送料十二錢）

KOSEI KAKU・KOSEI KAKU・KOSEI KAKU・KOSEI KAKU・KOSEI KAK

圖書目錄無代送呈

厚生閣書店

東京市麹町區下六番町四八
振替口座東京五九六〇〇番
電話九段三二一八番

~~263.6~~ 290.1
~~168~~ N83

終